

神とつながる最も容易な方法

2012年4月25日、プラシャーンティ・ニラヤムで三日間執り行われたアーラーダナ・マホーツァヴァム（奉事の大祭）の最終日に、サイの学生、Bro.サイギリダールが行った講演からの抜粋です。

バガヴァンが与えてくださったインタビューの中で、私たちはバガヴァンがどれほど素晴らしい手本を皆に示してくださったかを知っています。バガヴァンは扉を開き、全員を呼んで中に入らせた後、初めてご自分も部屋にお入りになります。それから扇風機のスイッチをつけて、背後の扉を閉め、歩いてご自分の椅子にお座りになり、最後にお話を始められます。完璧なホスト〔客を招いてもてなす主人〕です！

ある学生に与えられたインタビューの中で、唯一つを除いては、すべて同じように起こりました。扉を閉められた後、スワミは

「何か変わったことはありますか？」とお尋ねになる代わりに、雷のような大声でこうおっしゃったのです。

「君はいつまでこの私の体を追いかけるつもりですか？ いつまで私をこの肉体の中に閉じ込めておくつもりですか？ この体そのものを動かしている、目に見えない力を見ることを学びなさい！」

長い間ずっと純粋な愛と帰依心から、バガヴァンの肉体の姿のためだけに生きてきたその学生は、バガヴァンの言葉にびっくり仰天して嘆願しました。

「スワミ、でも僕はどうやって見えないものと繋がれば良いのかわかりません。僕は美しい御姿でしかあなたを知らないのです。どうか外に顕れていないもの、目に見えないもの、永遠なるものを通して、あなたと結びつく秘訣を教えてください」

バガヴァンはおっしゃいました。

「私は一生を通じて、ただこれだけを教えてきたというのに、君はまだ私にその質問を繰り返すのですか？」

そして、スワミはお続けになりました。

「帰依者がこの目に見えない力、永遠の神の力と結びつく唯一の方法、最も容

易な方法、最も素晴らしい方法は、愛です」

かつて、バガヴァンは聖母ラーダーとクリシュナの美しい物語を話してくださいました。

あるとき、クリシュナはクルクシェートラの戦いの後、布林ダーヴァンへ戻って来ました。クリシュナはラーダーを探しにヤムナー河の土手に向かい、ラーダーが木の下で忘我の状態で座っているのを発見しました。そこで、クリシュナはラーダーを驚かせてやろうと思いました。クリシュナはそっと木のそばに近づくと、突然、ラーダーの目の前に飛び出しました。ラーダーが喜びと驚きのあまり飛び上がるだろうと思ったのです。ところが落胆したことに、ラーダーはクリシュナを見て微笑しただけでした。クリシュナは言いました。



「ラーデー！ 私はあなたのクリシュナだよ。私はあなたのために帰って来たのだよ」

聖母ラーダーの顔に疑問符が浮かびました。ラーダーは言いました。

「私のために帰って来たのですか？」

ラーダーはクリシュナの手を取ってヤムナー河に向かい、手のひらに水をすくうと、それをクリシュナに見せて言いました。

「クリシュナ、ヤムナー河の一滴一滴の中にいるのは、あなたではないのですか？」

ラーダーは再びクリシュナの手を取って、自分が座っていた木の下に連れて行くと、注意深く一本の枝を折り取って、その葉っぱを見せて言いました。

「ごらんなさい、クリシュナ、この葉っぱ一枚一枚の中にいるのはあなたではないのですか？ 草の一本一本の中にいるのはあなたではないのですか？ あなたはいつも私と共に、私の周りにいるというのに、私のために帰って来たと言うのであれば、一体いつ私の元から離れたのですか？」

クリシュナはすぐさまラーダーの無条件の愛に圧倒されて、言いました。

「ラーデー、私は宇宙の主だ。何でも欲しいものを願いなさい。すぐにそれを授けよう」

ラーダーは答えました。

「あなたから欲しいものはありません」

クリシュナは言いました。

「私の愛さえ欲しくないというのか？」

すると、ラーダーは言いました。

「私は自分があなたを愛していることを知っています。あなたが私のものであることも、この先ずっと私のものであることも、永遠に私のものであることも知っています。あなたが私を愛していようと、愛してまいと、それは問題ではありません」

ここで、バガヴァンはおっしゃいます。兄弟姉妹の皆さん、これは素晴らしい極意です。神の化身であったクリシュナは、初めてひざまずくと、母なるラーダーの手を取って言いました。

「ラーデー、私は自分の全創造において、今、初めて自分の帰依者からあるものを受け取った。それは無条件の愛である」

バガヴァンは、この無条件の愛こそが、私たちが神と繋がるのを助けるのだとおっしゃっています。

出典：http://media.radiosai.org/journals/vol_10/01MAY12/03_Giridhar.htm